

科目名	プレゼンテーション			ナンバリング	IGN271	授業形態	演習
対象学年	4	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	林正彦	担当教員	野原幸男、渡邊義久、石川暁史				

授業の概要	イグナイト教育の成果を基に、薬学的知識の定着と活用を図り、また医療薬学的課題を調査・情報整理・分析し、まとめて発表する能力の醸成、及びチーム活動により問題解決力やコミュニケーション力を身につけることを目的とする。						
到達目標	1 確かな薬学の専門知識を説明することができる。 2 薬学的知識を活用し、課題を調査・情報整理・分析し、まとめて発表することができる。 3 チーム活動に貢献するコミュニケーションをとることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	教科書などを活用し、必要最低限の知識を学修しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
	○	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 生化学的検査値や画像診断、症状から疾患・症候群を判定することができる。 2 グループ内での討議に参加することができる。 3 正しい知識を正確に検索することができる。	1 確かな薬学の専門知識を説明することができる。 2 薬学的知識を活用し、課題を調査・情報整理・分析し、まとめて発表することができる。 3 チーム活動に貢献するコミュニケーションをとることができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○					
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			
プレゼンテーション					○		

課題、評価のフィードバック	授業中に教員からのフィードバックを行う。
---------------	----------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	[Phase1] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめておく。	
	第2回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第3回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第4回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第5回	[Phase 2] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめておく。	
	第6回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第7回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第8回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第9回	[Phase 3] 各種疾患とその治療薬に関する課題(1) ①調査	【予習】事前に与えられた課題(疾患症例)に対して、代表的な薬物療法、薬物療法を施す際の薬剤師の姿勢・行動、知識・責務、倫理ならびに技能等について参考書や資料を調査してまとめておく。	
	第10回	②調査のまとめ	課題についてグループ全員で検討し、適切な治療薬を選択するため、生化学的検査や画像診断、症状から判断される必要な調査項目を選定し、各自がその項目を分担して調べる。	
	第11回	③グループワーク	調査終了後、グループ内で調査結果を報告し合い、全体発表に向けて内容を整理し、発表の要点について、さらに検討を深める。	
	第12回	④全体発表・討論とまとめ	【予習】発表練習をしておくこと。【復習】全体発表評価表・貢献度評価表に批評されたコメントを読んでおくこと。	
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方	火、水曜日の3～5時限を用いて集中講義形式で行う。各Phaseにおいて、疾患関連のIRAT予習領域を指定するので、薬理学及び薬物治療学で関連する分野を勉強すること。各種疾患と治療薬に関する課題について調査する時間は十分あるので、チームで分担して調べ全体で討論して結論をまとめる。			
授業外学習の指示	自分で調べたことは、質疑応答ができるように内容を理解したうえで、コピーペーストではなく自分の言葉で発表できるようにすること。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)			

教科書	特に無し
参考書	①「疾病と病態生理」豊島 聡監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 ②「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考URLなど	治療ガイドラインや薬品添付文書など
その他	